

出産時の産道損壊により、 合併症や下肢障害も引き起こす 産科フィスチュラ」治療の世界的権威、 キャサリン・ハムリン医師の 来日講演会開催にご協力下さい。

あなた様のご支援ご協力をお願いいたします。



第7回女性のための抗加齢医学研究会
学術集會会長

麻生 佳津子先生

今回、産科フィスチュラ治療の世界的権威、キャサリン・ハムリン医師率いる「フィスチュラグループ」日本代表、中山道子氏を皆様にご紹介することに致しましたのは、彼女から世界、とりわけ、貧困に苦しんでいる開発途上国には出産時に産科にすらかかれない女性が多いという事実、そして出産時産道にダメージを受け、そこから、糞尿漏れが起こったり感染症を合併したり下肢障害を引き起こす「産科フィスチュラ」に苦しんでいる女性が全世界に200万人もいるのに、日本では一般にほとんど知られていないという現状を知ったからです。

女性のための医療支援、学術研究を使命とする当学会において、フィスチュラ治療と撲滅のために、開発途上国の女性を50年間もボランティアで支援されている、キャサリン・ハムリン博士の活動に、同じ女性として、そして、同じ医師として深い感銘と共感を覚えたのです。

ぜひ、あなた様も、共にハムリン医師の来日講演会を実現させて、「産科フィスチュラ」で悩める女性が世界中に居ることを日本中の方々に広く理解いただけますようこのハムリンフィスチュラジャパンへのご支援にご賛同いただければと存じます。

ハムリンフィスチュラジャパンとは？



故レジナルドとキャサリン・ハムリン医師夫妻は、フィスチュラ患者のために、1974年にアジスアベバ・フィスチュラホスピタルを、自費を投じて開設。20代からエチオピアに移り住み、半世紀を越えてフィスチュラ治療に専念してきたキャサリン医師は、夫レジナルド医師の死後もフィスチュラ手術に専念、「現代のマザーテレサ」(ニューヨークタイムズ紙)とも呼ばれています。

無償でフィスチュラ治療を続けるアジスアベバ・フィスチュラホスピタルは、2002-2003年度には、約1250人の入院患者、約2000人の通院患者を治療。累計患者総数は、3万人を超えております。

そんな夫妻の活動を感銘を受けた中山道子がキャサリン医師から直接依頼を受け、日本でのフィスチュラ患者への支援や啓蒙活動を行なう非営利団体「ハムリンフィスチュラジャパン(HFJ)」を2005年に設立。代表の中山は、東京大学法学部卒。ハーバード大学公衆衛生学大学院修士号取得。カレッジ・ウイメンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン奨学生。有限会社マリポーサ取締役、対米不動産投資コンサルタント。ウイメンズクラブ、ロータリークラブなど全国の協力者の方々のご支援のもとフィスチュラ問題の啓蒙講演などに奔走中。

連絡先：〒201-0014 東京都狛江市東和泉1-23-13 (有)マリポーサ気付フィスチュラジャパン
電話代表03-5282-3049 ファックス03-4496-6059、電子メール info@fistula-japan.org

裏面をご覧ください。

ハムリン医師来日講演会ならびに交流会実現の折には ご協力頂いたあなた様のお席を優先的にご用意致します。

キャサリン・ハムリン医師とは？



1924年生まれ、オーストラリア出身。貧困とフィスチュラという疾病の切実さから半世紀以上もフィスチュラ無料治療に尽力し、夫と共に1974年エチオピア (Ethiopia) の首都アジスアベバ (Addis Ababa) のフィスチュラ・ホスピタル (Fistula Hospital) を設立し現在院長。現代の「マザーテレサ」とも評される。1997年 Australian Living Treasures (オーストラリア人間国宝) に認定され、その功績は国際的にも高く評価されている。

主要受賞歴

- 1999 ノーベル賞平和賞候補 (Nominee, Nobel Peace Prize)
- 1998 ローターインターナショナルロータリー世界理解平和賞 (Rotary Award for World Understanding and Peace, Rotary International)
- 1987 テンプル騎士団金賞 (Gold Medal of Merit, Order of St. Gregory the Great)
- 1984 オーストラリア退役軍人会 ANZAC 平和賞 (ANZAC Peace Prize)
- 1971 ハイレ・セラシエ人道賞 (Haile Selassie Humanitarian Prize)

アジス・アベバ・フィスチュラ・ホスピタル受賞歴

- 2004 国連人口賞 (United Nations Population Award, UNFPA)
- 2004 アメリカ医師会 ドクター・ネイサン・デイビス賞 (Dr. Nathan Davis Award for Outstanding Global Health Initiative, American Medical Association)

ハムリンフィスチュラジャパンでは 既に多くの講演、啓蒙活動を行ない ご協力ご賛同いただく方が増えております。

●応援いただいている方：

株式会社エクセルイブ代表取締役・不動産コンサルタント 尾浦英香様

ハーバード大学同窓会会長・コンサルタント カール・ケイ様

川越青年会議所・倉沢建設常務取締役 倉沢延寿様

塩塚産婦人科医院 理事長 塩塚幸彦様

丸の内起業塾塾長・タリーズコーヒージャパン特別顧問 須賀等様

芸能タレント・特定非営利活動法人IFE代表 ソマホン様

日本ホームインスペクターズ協会会長・不動産コンサルタント 長嶋修様

公立那賀病院・産婦人科科長 西丈則様

株式会社生活水道センター代表取締役 濱本孝一様 その他多数 (五十音順)

●メディア紹介：

(新聞)

2006年2月25日 毎日新聞朝刊家庭欄

2005年9月5日 読売新聞朝刊家庭欄

(専門誌)

産科フィスチュラとはなにか 助産雑誌第61巻第3号

(2007年3月25日)

産科フィスチュラ (Obstetric Fistula) について 助産師第60巻第1号 (2006年2月1日)

●講演：

2008年11月6日 第49回日本母性衛生学会メインシンポジウム

2007年2月17日 国際ソロプチミスト東京

2006年9月29日 フィスチュラホスピタルのドキュメンタリーフィルム上映会

2006年7月19日 津田塾大学国際関係学科

2006年3月25日 青山ウイメンズプラザ

「フィスチュラ」サポーター

「フィスチュラって何？」一般の方がまずおっしゃることです。母子手帳制度や妊婦の定期的な健康管理を行っているわが国では、助産婦、産科医師の尽力と治療体制が充実しているため、「産科フィスチュラ」がほとんど発生しない体制が整っています。

そのために、わが国では一般の方には、「産科フィスチュラ」自体まったく知られていません。

しかし、世界に目を向けると、ハムリン医師が50年間献身されているエチオピアをはじめ、正確にはまだわかっていませんが、患者数は、全世界で200万人ともそれ以上とも言われています。

そこで、当ハムリンフィスチュラジャパンでは、「フィスチュラ」問題を多くの国民の方々に知っていただくため「フィスチュラ」サポーター制度をご用意しました。特に、困っている女性のために何かしたい、という心ある方の支援を求めています。ご登録は無料です。詳細はお問い合わせ下さい。

お問い合わせはこちら

〒201-0014 東京都狛江市東和泉1-23-13 (有)マリポーサ気付
フィスチュラジャパン 電話代表03-5282-3049
ファックス03-4496-6059、電子メール info@fistula-japan.org

